

お薬と肝機能の関係

～今日の検査値、確認しましたか？～

お薬は適切な量を使用することで病気を改善する（効果）一方で、好ましくない影響（副作用）を及ぼすことがあります。血液検査により、適切な量の確認や好ましくない影響をいち早く察知することができますので処方せんと検査値を合わせてお出してください。

今回は肝臓の機能と薬の影響について解説します。

〈肝臓の機能とお薬の関係〉

- 肝臓は食事を栄養に変えて体に貯蔵して、必要な時に供給する働き（代謝）や、血液中のアルコールや老廃物を分解・排泄し、体にとって有害となる物質を無毒化する働き（解毒）など、多くの働きがあります。その中の一つに、薬の効果や代謝にも肝臓の働きは影響を与えることが知られています。
- 口から飲んだ薬は腸管から吸収され肝臓を通り、全身に運ばれます。全身を回った薬は、便や尿と一緒に体の外へ排泄されます。このように、肝臓は薬の吸収や排泄に携わる臓器であり、薬の影響を受けやすい臓器の一つといえます。



〈肝臓の機能を見る検査値はなにがあるの？〉

- 肝臓に負担がかかり、肝臓の細胞が壊れると検査値が異常な高値を示すことがあります。肝臓の働きを反映する検査値は数多くありますが、代表的なものはこちらです。
 - AST (GOT)、ALT (GPT) γ -GTP、ビリルビン など

〈薬を使っている肝臓の機能は落ちる事がありますか？〉

- 先にありますように、肝臓は薬の影響を受けやすい臓器です。肝臓への負担が大きい薬剤の使用による肝機能低下や、もとの肝機能が低い状況での薬の使用は、肝臓へ障害を起こす場合があります。現在使用している薬剤や検査値を各医療機関、薬局などと情報を共有するとともに、検査値をもらった際には確認をするようにしましょう。
- また、病院でもらう薬以外にも注意が必要なものもあります。
 - 市販薬（解熱鎮痛剤、漢方薬など）、サプリメント、大量のアルコール摂取 など



〈どんなこと（症状）に注意したら良いの？〉

- 新しいお薬が始まったあとに肝機能の検査値が急上昇していないか、注意しましょう。ただし、肝臓の機能が低下する原因や、検査値の変動や症状の変化が必ずしも薬による影響とは限りません。肝臓の機能に変動があっても検査値に反映されない場合もあります。気になる症状や検査値は必ず主治医に相談しましょう。

〈参考〉重篤副採用疾患別対応マニュアル 第1集、発行(財)日本医薬情報センター(JAPIC)・発行協力(社)日本病院薬剤師会

監修：新宿区薬剤師連携協議会

作成日：2019年5月（初版）